2022年6月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第545号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体136円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

大阪から国内外に向けて発信

父の歩行研究を次世代に――///□■□

文・歩行開発研究所所長　岡本香代子

健康になる歩き方を追究して半世紀

『見直そう！歩き方 STOP！ 運動不足・座りすぎ・転倒』
岡本香代子著・歩行開発研究所・四六判・本体価格1200円・
ISBN978-4-902473-25-4 (2022)

「健康に歩く」を追究

歩行開発研究所は、国際的な歩行研究を講演・教育・出版を通じて普及し、より多くの人が元気に歩き続けることを望んで活動しています。

赤ちゃんから高齢者までの二足歩行を追究して50年、筋電図を活用した乳幼児歩行研究の第一人者である父・岡本勉（関西医科大学名誉教授・医学博士）と2人3脚で、歩行研究の成果を国内外に向けて出版し20年になります。

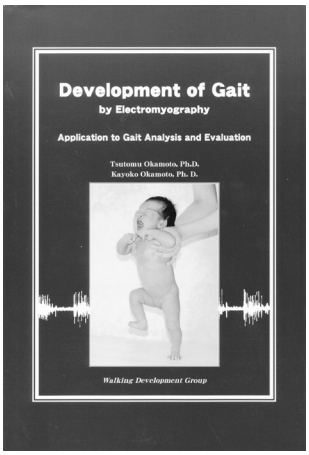
最新刊『見直そう！歩き方STOP！運動不足・座りすぎ・転倒』を2022年2月に出版しました。父が追求してきた人類永遠のテーマ「健康に二足で歩き続ける」を受け継いで、大学生の娘・岡本かのこ、今の時代に合わせてまとめました。

亡くなった父が残してくれた貴重な歩行研究を次世代に伝え、世界の人々の「健康に歩く」に貢献できますよう、世代交代した2人3脚で新たな課題に取り組んでいます。

歩行研究の歴史

父は歩行研究を始めるまで、人間の「基本運動の筋電図的研究」を行っていました。私が生まれた1960年代、世界で乳幼児歩行の筋電図が記録されていないことを知ります。私と妹を第一被験者として、乳幼児が歩行を獲得し上達していく過程の筋電図記録に成功しました。当時、日本ではあまり注目されませんでしたが、国際学会でその第一人者として高く評価されたそうです。その後、年齢による歩き方の変化を調べるため、乳児から幼児・成人・高齢者まで、延べ千人以上を対象に歩行時の筋電図を記録し、その特徴を解明してきました。

半世紀にわたり、歩き始めの不安定な乳幼児歩行のメカニズムを追究し、赤ちゃんから高齢者に至る二足歩行の研究をしています。今は世界の専門書・テキストにも引用され、2007年に英語版で出版した著書『筋電図からみた歩行の発達』は、世界の図書館にも所蔵されています。さらに、ヒトの直立二足歩行の解明だけでなく、異常歩行の診断・治療、歩行機能の回復・改善の評価など、歩行に関する様々な分野で応用されています。これらの功績が認められ、文部科学大臣賞・大阪府知事賞、2015年には瑞宝小綬章を受章しました。



英語版『筋電図からみた歩行の発達』
岡本勉・岡本香代子著・歩行開発研究所・菊判ハードカバー・本体価格5500円・ISBN978-4-902473-05-6 (2007)

健康ウォーキングの普及活動

私は子どもの頃から休日に父の研究室や大学へ行き、筋電図研究の被験者として協力し、海外の学会にも一緒に行きました。父の姿を見て育ち、同じ教育の道に進み研究したいと思い、大学は教育学部に進みました。大学院修了後、医大で歩行の基礎を研究し、博士の学位を取得しました。現在の本づくり、講演会、大学での教育に生かしています。

出版活動を始める前から、時代の

ニーズと対象者に合わせた「健康ウォーキング」を参加型の講演会で紹介しています。そして、全国の中高年の方々に、歩く力を維持する秘訣と重要性を発信しています。大学では長年、非常勤講師として「健康と運動」の教育活動に取り組んでいます。なかでも、京都大学では「ウォーキング授業」が開講されてから、「健康になる歩き方」を指導して今年で15年になりました。

出版活動のきっかけ

研究成果において、論文や学術書など歩行部分のみの執筆依頼はありましたが、ページ数が限られ、貴重なデータや専門内容を泣く泣く省きました。万全に周知したい思いが募り、「研究成果を世界に発信したい」「次世代に伝えたい」、そのためには『本で出したい』とずっと考えていました。一念発起し、2001年、「歩行開発研究所」を設立しました。第一弾は共著『ニューエクササイズウォーキング』です。私たちは出版の経験と知識が全くなく、出版業界の知り合いがいなかったので、見様見真似でISBNとJANコードを申請し、近くの印刷所に頼んで本を作成しました。書籍では、成人型の歩行を維持・回復させる歩行法、歩行老化を防ぐ基本運動を解説しています。脳梗塞の影響で歩行困難となった祖父を救いたい思いも相まって研究を深め、書籍づくりに生かしました。

書協と地方小との出会い

書籍は完成しましたが、販売手法がわからず、自作のチラシを図書館や大学に送付するなど悪戦苦闘の船出でした。そんなとき、近刊情報誌『これから出る本』の存在を知り、日本書籍出版協会（書協）に問い合わせ、書協大阪支部の方に父母私3人で会いに行きました。入会後はじめての書協例会の帰り、会員の方が「本はどうやって売るのか」と心配して声をかけてくださり、地方・小出版流通センターを紹介していただきました。藁をもすがる思いで飛んで行き、配本票を1日でもらってきました。後日、そのことを書協の方にご報告すると「情熱を持った素人さんはすごいな」と驚かれたことを今も覚えています。出版・流通について多くのことをご指導いただきました。全国の書店から本が注文できるようになったのは、出版して2か月後です。その後、全国の新聞で書籍や健康ウォーキング法が紹介され、少しずつ認知していただけるようになりました。右も左も分からない私たちを、出版の道に大きな温かいお心で導いてくださり、感謝の気持ちで一杯です。

「大阪地本祭」ジュンク堂書店 大阪本店（2017）

大阪の出版活動と伝統

2016年、父に代わり初めて書協大阪支部の例会に出席した際、「大阪地本祭」の準備が進められていました。地本祭とは、地元で作る本を地酒ではなく「地本」と名付け、大阪の出版活動の紹介と、大阪出版の活性化を目的にしたイベントです。そこで、大阪には伝統的で素晴らしい出版社と文化があることを知りました。江戸時代に大坂は京・江戸に並ぶ出版業の中心地であったこと、住吉大社・大阪天満宮にある初版本を奉納する「御文庫」の存在、両社に収められた本の曝書（虫干し）の行事、天神祭での陸渡御や船渡御「御文庫講船」など。300年続く伝統が今も受け継がれていることを知り、感動しました。

出版社は東京に8割以上集中していると言われますが、大阪の出版社の一員であることが嬉しく誇りに思いました。出版の原点に触れて身が引き締まると同時に、多くの方のおかげで出版活動ができていると強く感じました。微力ですが、私たちも大阪から後世に残る本をつくり、世界に発信するため精進したいと思います。

父の研究と思いを次世代に

2018年に父が癌を患い余命1ヵ月を宣告されました。「自分の足で一生歩きたい」と願い、毎日一緒に歩き、共同で歩行研究をしてきた父が、まさか寝たきり状態になるなど、思ってもいませんでした。「まだ本を出す」という強い気持ちが後押しして、私たちは積み重ねた研究を生かし、在宅でリハビリに取り組みました。万博記念公園（大阪府吹田市）の「太陽の塔」を見よう！とトレーニングを続け、歩行器なしで歩けるほどに回復しました。家族で外出できたときは涙が出るほど嬉しかったです。半年後の父の誕生日に出版した共著『寝たきりからのリハビリウォーク』が紹介された新聞記事を見て、医師も「奇跡だ」と感嘆されていました。その著書から、父の言葉を紹介します。

「私は、永年続けてきた筋肉に関する研究の成果が、多方面にわたって役立つことの確信が持てた。今、この状態になって、初めて気が付いたことである。これからもまだまだ研究を続けたい。研究成果をもとに試行錯誤しながら体を動かして、まだ不安定だが、一生懸命、自分の足で歩いている。『あきらめず、頑張りとおせ、最後まで！』

父がよく歩いた「太陽の塔」の前で

と何度も言いながら…」

書籍「見直そう！歩き方」を出版

2019年に父は他界しましたが、最後まで体を張って自らの研究、『歩行は復活できる』を実証しました。「高齢者が寝たきりになったからといって必ずしも人生が終わるわけではない。同じ境遇の人を勇気づけ、自ら実証したことが誰かの役に立てば」と願い、亡くなる2週間前まで歩き続けました。

今年2月に刊行した『見直そう！歩き方STOP！運動不足・座りすぎ・転倒』は、生涯、自分の足で歩き続けることをテーマにしています。研究で筋力を鍛えれば再び歩くことができるとわかっていても、筋肉が衰えた状態から動くことは、想像以上に大変だと父の姿をみて痛感しました。この本では、健康寿命をのばす歩き方、生涯歩き続けるために運動習慣を身につけることの重要性、特に加齢や運動不足による転倒・寝たきりを防ぐために筋力を維持する必要性に焦点を当てまとめています。

継承した親子2人3脚

娘も編集・校正に参加し、一緒に本を制作しました。現在、大学で心理学を学び、書店でアルバイトをしています。物心つく頃から、私が研究・講演や出版活動で忙しいとき、本づくりやチラシ折り、父の在宅介護で戦力となってくれました。「同じ道に進むかどうかまだわからないけど、私ができることは応援していきたい」と言っており、心強く思います。2人で試行錯誤しながら、前途多難な道を歩き始めました。

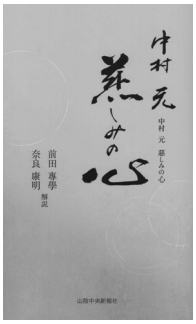
近年、英語版、電子書籍化にも取り組んでいます。世界に向けてのパブリシティも必要です。SNSを使った発信などは娘の方が得意なので、出版事業の幅が広がればと娘に期待しています。設立して20年を超えましたが、できていないこと、やりたいことが多くあります。父の研究がもっと広まるよう、書籍の一般販売はもとより、全国の図書館に並ぶような動きも考えていきたいです。次世代を担う人がいきいきと活動できる社会、理想的な健康長寿国を目指し、これからも活動を続けて参ります。私たち2人を応援していただければ幸いです。

（おかもと　かよこ・歩行開発研究所所長）

新刊ダイジェスト

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

『中村元　慈しみの心』●前田専學・奈良康明解説



『ブッダのことば』などの著書で一般の読者にもなじみ深い仏教学者の中村元氏は1999年に亡くなられたが、2012年その生誕地、松江に中村元記念館が創立された。今年はその10周年にあたり、さらに日印国交樹立70周年、そして地元紙山陰中央新報創刊140周年が重なる。それらを記念して山陰中央新報一面に「中村元　慈しみの心」の連載が開始され、その約一年分、348編が本書にまとめられた。冒頭に掲げられているのは、中村氏訳のブッダのことばである。「一切の生きとし生けるものは、幸福であれ、安穏であれ、安楽であれ。…何びとも他人を欺いてはならない。たといどこにあっても他人を軽んじてはならない。互いに他人に苦痛を与えることを望んではならない。この慈しみの心づかいを、しっかりとたもて。」中村元記念館初代館長の前田専學氏によると「慈しみ」とは中村氏が「慈悲」ということばを誰にでもわかるように言い換えたものだと言う。中村氏は若い頃からこの慈悲の精神に魅せられ、東西にわたる万巻の書を読み、書き、実践し、言わば慈悲の倫理学と言えるものを遺した。その中村氏の思想と心を継承せんと、本書にはブッダをはじめ、古今の経典や名僧など幅広い典拠からのことばが並び、それぞれに解説を付す。「村や町を破壊し包囲し、圧政者として一般に知られる人、かれを「賤しい」人であると知れ。（ブッダ）」（p288）簡明ながら今日の時代状況に照らし合わせてみると意味深く感じられることばが多い。（T）

◆1400円・新書判・367頁・**山陰中央新報社**・島根・202204刊・ISBN9784879032522

『新版　ゆっくり減薬のトリセツ』●月崎時央著

精神疾患の当事者や家族にとって、医師から処方される向精神薬にどのように向き合えばいいのかは、正直悩ましいものがある。確かに、薬を服用することで精神的に落ち着き日常生活が可能になっているということはある。しかし、量や種類が多すぎないか、様々な副作用らしき症状がある、等々不安や心配は尽きない。本書は精神障害者を家族に持つというジャーナリストの月崎時央氏が、2019年に自費出版として発行した『ゆっくり減薬のトリセツ』に、新たな情報を加筆、再編集した新版である。

第一章ではまず「調べる・知る」に重きを置き、当事者が毎日服用しながら意外と知らない向精神薬の詳細を取り上げる。第二章では「つながる」をテーマに、自助会などで減薬・断薬経験者の声を聞くこと、「薬剤師さん」を減薬の支援者として捉え直すこと、医師とのコミュニケーション術等を、実例豊かに解説する。第三章は「向き合う」をテーマに、まず自分の中の治る力を信じるということについて、そして減薬に伴う離脱症状について極めて重要な情報が記載されている。減薬や断薬を考えている当事者や家族にとっては貴重な情報の宝庫であり、何よりも実用的である。しかし一方で、一気断薬が非常に危険であり、減薬・断薬は「年単位」で「薄紙を一枚一枚剥がしていくように」「自分の体の声を聴きながら」長期的に構えること、そして、一人一人にあった方法があるのであって「減薬・断薬は決してマニュアル化できない」ことも強調されている。（N）

◆ 2200円・B５判・70頁・**読書日和**・静岡・202205刊・ISBN9784991032141

『「銀河鉄道の夜」の謎を解く －彼らはいったい何者なのか』●三浦幸司著

宮沢賢治の代表作のひとつ「銀河鉄道の夜」。長く読み継がれているが、賢治の死により未完であり、謎に満ちた作品として、これまでも様々に解釈、評論されてきたものの、札幌在住で児童文学者の著者は納得できるものが意外と少ないことに驚いていた。もともとは地元の「文学のつどい」で行われる講演の講師に指名され、「銀河鉄道の夜」を取り上げ、解説をしようと考えた。しかし、その試みは底なしの沼に落ち込むかのように難しく、焦っているうちにコロナでつどいは延期され、講演の機会は失われていたが、その代わりに三年目に突入していた研究の成果をまとめたものが本書。

謎の読み解きを始めるにあたり、カギになるのは？銀河鉄道は犠牲死した人を、天上へ送り届けるための存在である？という視点。なのにジョバンニはなぜ銀河鉄道に乗れたのか、「鳥を捕る人」の真実の姿とは、「姉弟」だけ日本人なのはなぜか、など数々の謎解きに挑んでいく。背景には日露戦争、第一次世界大戦やタイタニック号の事故といった賢治が生きた時代の出来事があり、人間の罪を背負ったキリストの姿にジョバンニを重ねている。さらに銀河鉄道の路線や座席についても図や写真を用いて画期的に解説している。犠牲死した人（カンパネルラや青年と姉弟など）を乗客とし、同時代に賢治が体験・見聞したものをスクラップ帖のように切り貼りした永遠のファンタジーの謎が緻密に解明されていく。（Y）

◆ 1800円・四六判・179頁・**寿郎社**・北海道・202203刊・ISBN9784909281418

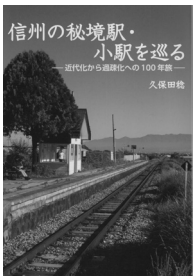
『ソンヨン一直線』●鶴丸哲雄著

九州大学大学院で日本社会文化を学ぶ韓国人留学生金成妍（キム・ソンヨン）はある日、ゼミの教授に呼び止められ、２冊の本を手渡される。その時教授は何も語らず車で走り去った。本には「久留島武彦」とあるが、読み方すらも分からない。それから二日後、唐突に教授の急逝を告げられる。呆然とする中で本を取り出し、久留島が明治後期に巌谷小波に師事し、子どもたちにお伽噺を語り聞かせる口演童話の草分けで、日本のアンデルセンと呼ばれた童話作家であることや、出身地の大分県玖珠町に記念施設のあることを知り、矢も楯もたまらず、福岡から玖珠行の高速バスに飛び乗る。学術的研究がほとんどされていない「久留島をやれ」。恩師からの「最後の宿題」であると察し、博士課程の研究テーマに定める。

13年後の2017年、人口１万５千人の小さな町玖珠に町立の久留島武彦記念館が開設され初代館長に就任する。大学院終了後も通訳などで生計を立てながら研究を続け『西日本新聞』に寄稿。感動した一人の町民から声を掛けられ、講演会、久留島学講座、研究所設立へと発展。町長にミュージアム建設を直訴した。久留島に寄せる熱い思いと正に一直線の歩みを先の新聞記者に語り、聞き書き書となった。久留島武彦童話賞子ども創作童話コンクール、社会福祉法人と連携した特産菓子「童話の里玖珠町ものがたり」開発と、素晴らしい活動が続く。「良い人の歩いた跡には花が咲く」、久留島の理想が良い人を得て実った。（飯澤文夫）

◆ 2000円・四六判・224頁・**中国書店（集広舎）**・福岡・202202刊・ISBN9784867350287

『信州の秘境駅・小駅を巡る』●久保田稔著



近年、鉄道を取り巻く環境には厳しいものがあります。長野県を走る鉄道でもとりわけローカル線は過疎化・少子化に伴う利用者の減少が続いています。本書はそんな長野県内のローカル線の小駅やいわゆる秘境駅（周囲にほとんど人家のない駅）を巡る一冊です。飯山線・大糸線から秘境駅の宝庫（?）飯田線に至るまで魅力的な駅が多く紹介されています。と言っても鉄道マニア向けではなく、路線や地域の歴史まで触れながらの駅巡りです。

今は利用者の少ない秘境駅ではありますが、そこに降り立ち歴史を調べれば、そこには住民の思いが詰まっていることが伝わってきます。南信にある飯田線の門島駅からは、戦時中満州への開拓移民が出発しましたが、終戦後引き上げができず残留した人たちは中国での暮らしを余儀なくされました。しかし戦後50年経ってようやく帰郷することのできた女性は戦前からの駅舎が残っていたこの門島駅に再び戻ってきたのでした。北信を走る飯山線の平滝駅には駅探訪の鉄道ファンもよく訪れ地元の委託駅員の方との交流もあります。この平滝駅がある栄村は、2011年3月12日の地震で大きな被害を受け、飯山線もしばらく不通になりました。村の中心部にある森宮野原駅では、地震から10年の節目に「復興灯明祭」が行われ、今なお駅が地域の中心のひとつであることがわかります。一見何もないように見える小さな駅ですが、それぞれに魅力を持っていることが存分に伝わってきます。（副隊長）

◆1500円・A5判・167頁・**川辺書林**・長野・202203刊・ISBN9784906529926

地方小出版流通センター　ジャンル別 新刊案内

2022年4月1日～30日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

※当月はジャンル【絵本・児童書・学習参考書】に該当する書籍はありません。

【雑誌】

◆**faura**　64　大橋　弘一編　A4　79頁　952円　ナチュラリー［北海道］978-4-503-22589-4　22/04

◆**そらとぶこぎん**　第6号　鈴木　真枝編　A5　76頁　909円　津軽書房［青森］978-4-8066-0253-8　22/04

◆**Kappo**　vol.117　2022年5月号　プレスアート編　298mm×230mm　111頁　745円　プレスアート［宮城］978-4-503-22573-3　22/04

◆**S−style**　05　vol.689　プレスアート編　298mm×232mm　123頁　450円　プレスアート［宮城］978-4-503-22587-0　22/04

◆**GREEN REPORT**　508　2022年4月号　廣瀬　仁編　A4　191頁　2546円　地域環境ネット［埼玉］978-4-909864-40-6　22/04

◆**かまくら春秋**　No.623　2022年3月号　伊藤　玄二郎編　B6　108頁　327円　かまくら春秋社［神奈川］978-4-7740-0852-3　22/03

◆**道**　No.212　木村　郁子編　A4　74頁　1143円　どう出版［神奈川］978-4-910001-22-7　22/04

◆**くらしと教育をつなぐ We**　No.237　2022年4／5月号　中村　泰子編　A5　80頁　830円　フェミックス［神奈川］978-4-910420-11-0　22/04

◆**AXIS**　Vol.217　2022年6月号　上條　昌宏編　297mm×225mm　128頁　1636円　アクシス［東京］978-4-503-22588-7　22/06

◆**地方史研究**　第416号　地方史研究協議会編　A5　134頁　1143円　岩田書院［東京］978-4-86602-866-8　22/04

◆**武田氏研究**　第65号　武田氏研究会編　A5　64頁　1200円　岩田書院［東京］978-4-503-22583-2　22/03

◆**子どもと読書**　453号　2022年5・6月号　親子読書地域文庫全国連絡会編　A5　40頁　509円　親子読書地域文庫全国連絡会［東京］978-4-907376-55-0　22/04

◆**明日を拓く**　第132号　No.215　鳥山　洋編　A5　138頁　1000円　解放書店［東京］978-4-503-22577-1　22/03

◆**仏事**　No.259　2022年4月号　奥村　昇編　A4　84頁　1500円　鎌倉新書［東京］978-4-503-22572-6　22/04

◆**月刊住職**　No.281　2022年4月号　矢澤　澄道編　A5　189頁　1364円　興山舎［東京］978-4-910408-09-5　22/04

◆**子どもの文化**　No.609　2022年5月号　片岡　輝編　A5　47頁　290円　子どもの文化研究所［東京］978-4-503-22586-3　22/05

◆**the座**　No.112　高橋　彩子編　B5　32頁　1000円　こまつ座［東京］978-4-503-22581-8　22/04

◆**月刊　石材**　vol.498　2022年3月号　中江　庸編　B5　84頁　2048円　石文社［東京］978-4-503-22580-1　22/03

◆**セセデ**　vol.734　2022年5月号　朝鮮青年社編　A4　47頁　482円　朝鮮青年社［東京］978-4-503-22584-9　22/05

◆**東京かわら版**　No.586　2022年5月号　佐藤　友美編　203mm×110mm　154頁　545円　東京かわら版［東京］978-4-910085-21-0　22/04

◆**こどもとしょかん**　第173号　張替　惠子編　A5　29頁　710円　東京子ども図書館［東京］978-4-503-22582-5　22/04

◆**みんなの図書館**　No.541　2022年5月号　図書館問題研究会編　A5　80頁　750円　図書館問題研究会［東京］978-4-503-22578-8　22/04

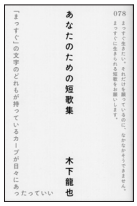
◆**おりがみ**　No.562　2022年6月号

売行良好書

期間：2022年4月15日～5月14日
※価格は本体価格表示です。別途消費税がかかります。

［出荷センター扱い］

(1)『水上バス浅草行き』1700円・ナナロク社　(2)『カミーユ』2000円・書肆侃侃房　(3)『あなたのための短歌集』1700円・ナナロク社　(4)『生き直す　免田栄という軌跡』2000円・弦書房　(5)『東京の森のカフェ』1300円・書肆侃侃房　(6)『不謹慎な旅』2000円・弦書房　(7)『出雲王国とヤマト政権』2250円・大元出版　(8)『信州の秘境駅・小駅を巡る』1500円・川辺書林　(9)『赤ずきんとオオカミのトラウマ・ケア』1800円・アスク・ヒューマン・ケア　(10)『ヒロスケ　ながさき１００のひみつ』1500円・長崎文献社　(11)『情報の歴史２１』6800円・編集工学研究所　(12)『渡良瀬川の自転車旅』1800円・随想舎　(13)『こどもの吃音症状を悪化させないためにできること』2000円・海風社



［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］

(1)『左川ちか全集』2800円・書肆侃侃房　(2)『北海道いい旅研究室１８』791円・海豹舎　(3)『新装版 奥武蔵登山詳細図 全130コース』900円・吉備人出版　(4)『朝焼けと狩人』1600円・かまくら春秋社　(5)『そらとぶこぎん　第６号』909円・津軽書房　(6)『海の領主　忽那氏の中世』2500円・高志書院　(7)『旅人類　０８』1000円・共同文化社　(8)『交差する日台戦後サブカルチャー史』3000円・北海道大学出版会　(9)『神話的時間』1456円・熊本子どもの本の研究会　(10)『沖縄さかな図鑑』1800円・沖縄タイムス社　(11)『生き直す　免田栄という軌跡』2000円・弦書房　(12)『新版　奥多摩登山詳細図　西編』900円・吉備人出版　(13)『サルタ彦大神と竜』2000円・大元出版　(14)『不謹慎な旅』2000円・弦書房　(15)『うちなあぐち大字引』3500円・南謡出版　(16)『芭蕉布物語』1500円・榕樹書林　(17)『まぁ映画な、岡山じゃ県３』1600円・蜻文庫

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼ロシアによるウクライナ侵攻以来、ウクライナ語に関心を寄せている日本人が少なからずいるようです。当方にて取り扱いのある**【ウクライナ語辞典】**（ユーラシアセンター / ビェリコフ・オレクサンドル・セルギョヴィチ共編　本体価格20,000円　ベスト社刊）は、昨年の3/1～5/13の期間ほぼ注文はありませんでしたが、今年の場合は10冊ほど出荷されていました。また同じ出版社から刊行されている**【ウクライナ語会話・文法】**（ユーラシアセンター / スロボヂャン・ヴァレンチナ共編　本体価格5,000円）の場合は、同様に昨年同時期はほぼ注文はなく、今年は30冊ほどが出荷されているようです。微々たる数字ではありますが、もとより高額で市場在庫がほぼないものであることを考えると、稀なことであると言えます。因みに、このベスト社は、ＫＫベストセラーズのレーベル「ベスト新書」とは全く関連はありません。

▼これも緊急出版と言えると思いますが、**【世界遺産ガイド　－ウクライナ編】**（古田陽久著本体価格2,600円 ISBN9784862002600）がシンクタンクせとうち総合研究機構から３月に刊行されています。著者による概説では次のように危機感があらわにされています。＜ロシア連邦の軍事侵攻によって、ウクライナの国は、危機的な状況に瀕している。長年、ユネスコ遺産を研究してきた観点から、ウクライナにある世界的な「顕著な普遍的価値」を有する「世界遺産」、グローバル化によって失われつつある「世界無形文化遺産」、われわれ人類にとって忘れてはならない「世界の記憶」にはどの様なものがあるのかを把握し、「人命」と同様に、あらゆる「脅威」や「危険」からこれらを守っていかなければならない。〉（同社webサイトより）

＊

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

honto
ネット通販で地方・小出版流通センター扱い
本がご購入いただけます。
honto.jp
hontoではお客様の読書スタイルにあわせて
電子書籍でも紙の本でもご購入でき、hontoポイントは
ネットでも書店でも使えて、貯められます。
地方・小出版流通センター扱いのご当地本もネットで
ご購入いただけます。
くわしくは honto.jp へアクセスください。